

令和6年(2024年)の全数把握対象疾患

届出された全数把握対象疾患について、感染症サーベイランスシステム(NESID)より情報を収集・解析した。

令和6年までの全数把握対象疾患の届出状況は、表1のようになっている。なお、現時点(令和7年9月時点)での速報値であり、後日変更されることがある。

1. 一類感染症

届出はなかった。

2. 二類感染症

結核は173例の届出があり、2023年の208例から減少した。男性114例(0～9歳3例、20～29歳10例、30～39歳6例、40～49歳2例、50～59歳8例、60～69歳12例、70～79歳24例、80～89歳39例、90～99歳9例、100～109歳1例)、女性59例(0～9歳4例、20～29歳9例、30～39歳7例、40～49歳2例、50～59歳7例、60～69歳3例、70～79歳6例、80～89歳16例、90～99歳5例)で、70歳以上が全体の58%と6割近くを占めていた。類型は、患者114例、無症状病原体保有者57例、感染症死亡疑い者の死体1例、感染症死亡者の死体1例であった。患者の病型は、肺結核が74例、その他の結核(結核性胸膜炎、結核性髄膜炎、リンパ節結核、粟粒結核等)が37例、肺結核及びその他の結核が5例であった(別添1)。

3. 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症は20例の届出があり、2023年の31例から減少した。男性6例(0～9歳2例、10～19歳1例、20～29歳2例、70～79歳1例)、女性14例(0～9歳1例、10～19歳1例、20～29歳3例、30～39歳3例、40～49歳3例、50～59歳2例、80～89歳1例)であった。感染者の類型は、患者14例、無症状病原体保有者が6例で、溶血性尿毒症症候群(HUS)は0例であった。血清型・検出病原体は、O157が17例(VT1&VT2が11例、VT2が6例)、O146が1例(VT1&VT2が1例)、O型判別不能が2例(VT1が2例)であった。推定感染経路は、経口感染が6例、接触感染が1例、動物・蚊・昆虫等からの感染が1例、その他が1例、不明が11例であった。経口感染が推定されている事例には、ユッケや生せんまいといった生肉を喫食した記載のある事例が含まれていた。また、動物・蚊・昆虫等からの感染が推定されている事例では、飼育されているヤギとの接触があった。

4. 四類感染症

E型肝炎2例、重症熱性血小板減少症候群1例、つつが虫病1例、デング熱1例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症25例、レプトスピラ症1例の届出があった。

E型肝炎は4月に1例、5月に1例の届出があった。1例は、40代の男性で、便及び血清から病原体遺伝子が検出された。もう1例は、80代の女性で、病原体遺伝子の検出は認められなかったが、血清IgA抗体が検出された。どちらの事例も、感染経路は不明であった。

重症熱性血小板減少症候群は、6月に1例の届出があった。80代の女性で、下痢及び意識障害で救急搬送され、血小板減少、白血球減少、AST上昇、けいれん及び脳症がみられた。ダニ

の刺し口は見当たらず、脚部に穴のような痂皮が認められた。血清から病原体遺伝子が検出され、奈良県における重症熱性血小板減少症候群の第 1 例目となった。感染経路は畑作業中のダニ咬傷疑いと推定された。

つつが虫病は、12月に1例の届出があった。80代の男性で、血清 IgM 抗体が検出された。動物・蚊・昆虫等からの感染で、感染地域は県内と推定された。

デング熱は、3月に1例の届出があった。30代の男性で、2日以上続く発熱、全身の筋肉痛、発疹、白血球減少を呈し、血清から病原体遺伝子が検出された。インドネシアへの渡航歴があり、海外渡航中に蚊に刺されたことが感染経路と推定された。

日本紅斑熱は、11月に1例の届出があった。60代の女性で、発熱、発疹、肝機能異常を呈し、マダニによる刺し口と推定されるものが確認された。その痂皮及び紅斑部生検より、病原体遺伝子が検出されたが、推定感染地域は不明であった。

レジオネラ症は、25例の届出があった。男性 15 例(50～59 歳 4 例、60～69 歳 2 例、70～79 歳 2 例、80～89 歳 3 例、90～99 歳 4 例)、女性 10 例(10～19 歳 1 例、70～79 歳 3 例、80～89 歳 3 例、90～99 歳 3 例)であった。病型は、肺炎型 24 例、ポンティアック熱型 1 例であった。推定感染経路は水系感染が 9 例、塵埃感染が 1 例、その他が 2 例、不明が 13 例であった。

レプトスピラ症は、10月に1例の届出があった。50代の男性で、ペア血清での抗体価の有意上昇が見られた。発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、蛋白尿、腎不全を呈し、インドネシアへの渡航歴があり、国外もしくは国内での水系感染と推定された。

5. 五類感染症

アメーバ赤痢 6 例、ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。)5 例、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 39 例、急性弛緩性麻痺(急性灰白随炎を除く。)2 例、急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)2 例、クロイツフェルト・ヤコブ症 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 19 例、後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む。)7 例、侵襲性インフルエンザ菌感染症 15 例、侵襲性肺炎球菌感染症 28 例、水痘(入院例に限る。)8 例、梅毒 82 例、播種性クリプトコックス症 2 例、破傷風 4 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 12 例、百日咳 18 例、麻しん 2 例の届出があった。

アメーバ赤痢は 6 例の届出があり、すべて男性(40～49 歳 1 例、50～59 歳 2 例、60～69 歳 3 例)であった。病型は、腸管アメーバ症 5 例、腸管外アメーバ症 1 例であった。推定感染経路は経口感染 3 例、性的接触 1 例、不明 2 例であり、推定感染地域は、県内 3 例、国外 1 例、不明 2 例であった。

ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。)は 5 例の届出があり、すべて男性(10～19 歳 1 例、20～29 歳 2 例、40～49 歳 1 例、50～59 歳 1 例)であった。病型は B 型が 4 例、その他が 1 例であった。推定感染経路は性的接触(異性間)3 例、不明 2 例であり、推定感染地域は、県内 3 例、県外 1 例、不明 1 例であった。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は 39 例の届出があり、男性 26 例(0～9 歳 1 例、30～39 歳 1 例、50～59 歳 1 例、60～69 歳 4 例、70～79 歳 13 例、80～89 歳 6 例)、女性 13 例(0

～9歳1例、50～59歳1例、60～69歳2例、70～79歳3例、80～89歳4例、90～99歳2例)であった。年齢は60歳以上が多く、全体の約9割を占めた。病原体検出検体は、血液10例、腹水2例、喀痰9例、膿3例、尿12例、その他6例であった(重複を含む)。分離された菌種は、*Klebsiella aerogenes* 11株、*Escherichia coli* 13株、*Klebsiella pneumoniae* 5株、*Enterobacter cloacae* 5株、*Enterobacter cloacae* complex 4株、*Klebsiella oxytoca* 1株、*Serratia marcescens* 1株であった(重複を含む)。推定感染経路は、以前からの保菌が18例、尿路カテーテル3例、その他医療器具関連1例、院内感染3例、手術部位(手術手技)3例、不明11例であった(別添2)。

急性弛緩性麻痺(急性灰白随炎を除く。)は、2例の届出があった。1例は、10歳未満の女児で、両下肢及び顔面の弛緩性麻痺、深部腱反射低下、髄液蛋白増加を呈した。髄液よりエンテロウイルスの遺伝子を検出したが、感染経路は不明であった。もう1例も、10歳未満の女児で、左上肢、両下肢及び呼吸筋の弛緩性麻痺、深部腱反射低下、感覚障害を呈した。便からライノウイルスの遺伝子を検出し、家庭内における飛沫・飛沫核感染と推定された。

急性脳炎は2例の届出があり、どちらも男性(10～19歳2例)であった。病型は、その他が2例で、どちらも *Mycoplasma pneumoniae* であった。

クロイツフェルト・ヤコブ症は2例の届出があり、どちらも男性(80～89歳2例)であった。病型は、孤発性プリオン病が2例で、古典的クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)が1例、その他が1例であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は19例の届出があり、男性11例(30～39歳1例、50～59歳2例、60～69歳2例、70～79歳5例、90～99歳1例)、女性8例(0～9歳1例、30～39歳2例、40～49歳1例、50～59歳1例、60～69歳2例、70～79歳1例)であった。血清群はA群9例、G群7例、不明3例であり、推定感染経路は創傷感染8例、飛沫・飛沫核感染2例、接触感染1例、その他2例、不明6例であった。

後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む。)は男性7例(20～29歳3例、30～39歳1例、40～49歳2例、50～59歳1例)の届出があった。病型は、AIDS4例、無症候性キャリア3例であり、推定感染経路は、性的接触4例(異性間2例、同性間2例)、その他1例、不明2例であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は15例の届出があり、男性10例(0～9歳1例、40～49歳1例、50～59歳1例、70～79歳1例、80～89歳5例、90～99歳1例)、女性5例(0～9歳1例、10～19歳1例、60～69歳1例、80～89歳2例)であった。ワクチン接種歴は、接種歴あり3例(4回2例、3回1例)、接種歴なし1例、接種歴不明11例であった。

侵襲性肺炎球菌感染症は28例の届出があり、男性18例(0～9歳3例、10～19歳1例、50～59歳1例、60～69歳5例、70～79歳4例、80～89歳3例、90～99歳1例)、女性10例(0～9歳2例、40～49歳1例、50～59歳1例、60～69歳1例、70～79歳3例、80～89歳1例、90～99歳1例)であった。ワクチン接種歴は、接種歴あり6例(4回2例、3回2例、2回1例、1回1例)、接種歴無し10例、接種歴不明12例であった。

水痘(入院例に限る)は8例の届出があり、男性5例(20～29歳1例、40～49歳1例、70～79歳3例)、女性3例(10～19歳1例、40～49歳2例)であった。病型は、検査診断例6例、臨床

診断例 2 例であり、ワクチン接種歴は、接種歴無し 4 例、接種歴不明 4 例であった。推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染 3 例、不明 5 例であった。

梅毒は 82 例の届出があり、2023 年の 93 例より減少した。男性 61 例(20～29 歳 6 例、30～39 歳 11 例、40～49 歳 16 例、50～59 歳 10 例、60～69 歳 13 例、70～79 歳 4 例、80～89 歳 1 例)、女性 21 例(10～19 歳 3 例、20～29 歳 12 例、30～39 歳 2 例、50～59 歳 2 例、60～69 歳 1 例、70～79 歳 1 例)であった。患者の病型は、早期顕症梅毒 63 例(I 期:男性 34 例、女性 5 例、II 期:男性 15 例、女性 9 例)、晩期顕症梅毒 3 例(男性 2 例、女性 1 例)、無症候(無症状病原体保有者)16 例(男性 10 例、女性 6 例)であり、早期顕症梅毒のうち 40 代男性 1 例及び無症候(無症状病原体保有者)のうち 40 代男性 1 例は、HIV 感染症の合併があった。また、早期顕症梅毒のうち女性 1 例及び無症候(無症状病原体保有者)のうち女性 1 例は、妊娠中であった。感染経路は性的接触が 70 例(同性間 4 例、異性間 61 例、不明 5 例)、その他 1 例、不明 11 例であり、性的接触(同性間)はすべて男性であった。また、性風俗産業の従事歴(直近 6 か月以内)があった事例は 5 例あり、性風俗産業の利用歴(直近 6 か月以内)があった事例は 26 例あった。推定感染地域は、奈良県が 22 例、奈良県以外(都道府県不明を含む)が 33 例、不明は 27 例であった(別添 3)。

播種性クリプトコックス症は 2 例(70～79 歳男性 1 例及び 90～99 歳女性 1 例)の届出があり、感染原因はどちらも免疫不全によるものとされていた。

破傷風は 4 例の届出があり、男性 2 例(50～59 歳 1 例、80～89 歳 1 例)、女性 2 例(70～79 歳 1 例、80～89 歳 1 例)であった。推定感染経路は、創傷感染 3 例、不明 1 例であり、ワクチン接種歴は、接種歴なし 2 例、接種歴不明 2 例であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 12 例の届出があり、男性 5 例(60～69 歳 1 例、70～79 歳 4 例)、女性 7 例(70～79 歳 2 例、80～89 歳 4 例、90～99 歳 1 例)であった。病原体検出検体は、血液 4 例、膿 1 例、尿 5 例、その他 2 例であり、分離された菌種は、すべて *Enterococcus faecium* であった。推定感染経路は、接触感染 4 例、針等の鋭利なものの刺入による感染 1 例、不明 7 例であった。

百日咳は 18 例の届出があり、男性 12 例(0～9 歳 1 例、10～19 歳 7 例、20～29 歳 1 例、40～49 歳 3 例)、女性 6 例(0～9 歳 1 例、10～19 歳 3 例、40～49 歳 1 例、50～59 歳 1 例)であった。推定感染経路は、家庭内感染 3 例、その他 3 例、不明 12 例であった。ワクチン接種歴は、接種歴あり 9 例(すべて 4 回接種)、接種歴不明 9 例であった。

麻しんは 2 例の届出があった。1 例は 20 代の男性で、発熱、咳、結膜充血、発疹を呈し、咽頭拭い液、血液及び尿から病原体遺伝子が検出された。日本へ旅行中の海外居住者であり、国外での感染と推定された。ワクチン接種歴は不明であった。もう 1 例は、30 代の男性で、1 例目の麻しん患者の接触者であった。経過観察期間に発熱を呈し、咽頭拭い液、血液及び尿から病原体遺伝子が検出された。ワクチン接種歴は 2 回であった。

表1 全数把握対象疾患報告状況

疾患名	調査年		平成25年(2013年)		平成26年(2014年)		平成27年(2015年)		平成28年(2016年)		平成29年(2017年)		平成30年(2018年)	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
エボラ出血熱														
クリミア・コンゴ出血熱														
痘そう														
南米出血熱														
ペスト														
マールブルグ病														
ラッサ熱														
急性灰白髄炎	1													
結核	27,052	343	26,629	300	24,523	305	24,669	266	23,427	285	22,448	232		
ジフテリア														
重症急性呼吸器症候群														
中東呼吸器症候群														
鳥インフルエンザ(H5N1)														
鳥インフルエンザ(H7N9)														
コレラ	4		5		7		9		7		4			
細菌性赤痢	143	1	158		156	1	121	2	141		268	1		
腸管出血性大腸菌感染症	4,044	30	4,151	23	3,573	27	3,647	23	3,904	21	3,854	26		
腸チフス	65		53	2	37	1	52		37		35			
パラチフス	50		16		32	1	20		14		23			
E型肝炎	127		154		212	2	356	2	305	1	446			
ウエストナイル熱														
A型肝炎	128		433	8	243	2	272	3	285	1	926	7		
エキノコックス症	20		28		25		27		30		19			
黄熱														
オウム病	6		8		5		6		13		6			
オムスク出血熱														
回帰熱	1		1		4		7		8		6			
キャサスル森林病														
Q熱	6		1									3		
狂犬病														
コクシジオイデス症	4		2		3		3		4		2			
エムボックス														
ジカウイルス感染症									12		5			
重症熱性血小板減少症候群	48		61		60		60		90		77			
腎症候性出血熱														
西部ウマ脳炎														
ダニ媒介脳炎								1	2		1			
炭疽														
チクングニア熱	14	1	16	1	17		14		5		4			
つつが虫病	344		320		422		505		447	1	456			
デング熱	249	2	341	3	293	4	342	5	245	4	201	2		
東部ウマ脳炎														
鳥インフルエンザ(H5N1を除く)														
ニバウイルス感染症														
日本紅斑熱	175		241	1	215		277		337		305			
日本脳炎	9		2		2	1	11		3					
ハンタウイルス肺症候群														
Bウイルス病														
鼻疽														
ブルセラ症	2		10		5		2		2		3			
ベネズエラウマ脳炎														
ヘンドラウイルス感染症														
発しんチフス														
ボツリヌス症			1		1		5	1	4		2			
マラリア	47	2	60	1	40	2	54		61		50			
野兎病	1		1		2									
ライム病	20	1	17		9		8		19		13			
リッサウイルス感染症														
リフトバレー熱														
類鼻疽	4				1				1		2			
レジオネラ症	1,124	12	1,248	11	1,592	8	1,602	10	1,733	18	2,142	19		
レプトスピラ症	29		48		33		76		46		32			
ロッキー山紅斑熱														
アメーバ赤痢	1,047	8	1,134	15	1,109	18	1,151	11	1,089	9	843	9		
ウィルス性肝炎(再掲：合計)	236	2	188	1	206	2	228	1	241	1	214	1		
B型	30		27		35		35		31		29			
C型														
D型														
その他	20		11		14		17		22		33			
不明											1			
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	286	2	226	1	255	2	280	1	295	1	277	1		
急性弛緩性麻痺			314	5	1,671	28	1,573	22	1,660	27	2,289	45		
急性脳炎	369		459	3	511	4	763	4	702	5	679	7		
クリプトスポリジウム症	25		98		15		14		19		25			
クロイツフェルト・ヤコブ病	203	8	177		192	2	175	3	200	3	221	2		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	203	1	268	2	415	2	494	5	587	10	694	16		
後天性免疫不全症候群	1,586	8	1,538	14	1,431	14	1,443	3	1,395	7	1,301	6		
ジアルジア症	82	1	68		81		71	1	60	1	68			
侵袭性インフルエンザ菌感染症	108		200	2	252	3	312	6	372	3	488	4		
侵袭性髄膜炎菌感染症	23		37		34	1	43	1	25		37	1		
侵袭性肺炎球菌感染症	1,001	9	1,825	20	2,403	21	2,735	23	3,205	40	3,328	28		
水痘(入院例)			143	5	313	6	318	3	312	5	466	5		
先天性風しん症候群	32		9											
梅毒	1,228	6	1,661	16	2,690	19	4,575	36	5,826	29	7,007	53		
播種性クリプトコックス症			37		120		137	1	137	2	182	2		
破傷風	128	2	126	1	120		129	3	125	2	134	1		
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症														
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	55		56		66	1	61	5	83		80	7		
百日咳											12,115	56		
風しん	14,344	180	319	5	163	1	126		91	2	2,941	10		
麻疹	229		462	1	35	1	165	3	186	1	279			
薬剤耐性アシネトバクター感染症			15		38		33		28		24			
髄膜炎菌性髄膜炎	2													

表1 全数把握対象疾患報告状況

疾患名	調査年	平成31年・令和元年 (2019年)		令和2年 (2020年)		令和3年 (2021年)		令和4年 (2022年)		令和5年 (2023年)		令和6年 (2024年)	
		全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
		エボラ出血熱											
クリミア・コンゴ出血熱													
痘そう													
南米出血熱													
ベスト													
マールブルグ病													
ラッサ熱													
急性灰白髄炎													
結核	21,672	283	17,786	202	16,299	174	14,798	167	15,377	208	16,238	173	
ジフテリア													
重症急性呼吸器症候群													
中東呼吸器症候群													
鳥インフルエンザ(H5N1)													
鳥インフルエンザ(H7N9)													
コレラ	5		1				1		2		2		
細菌性赤痢	140		87		7		16		47		74		
腸管出血性大腸菌感染症	3,744	23	3,094	52	3,243	46	3,370	27	3,826	31	3,748	20	
腸チフス	37		21		4		16		39		42		
パラチフス	21		7				10		9		7		
E型肝炎	493	1	454	1	460		435	2	552		527	2	
ウエストナイル熱													
A型肝炎	425	3	120	1	71		69		56		137		
エキノコックス症	28		24		35		28		14		20		
黄熱									225	1	19		
オウム病	13		7		9		12						
オムスク出血熱									8		4		
回帰熱	7		15		10		25						
キャサスル森林病									23		11		
Q熱	2				1								
狂犬病			1						1		6		
コクシジオイデス症	2		6				2						
エムボックス							7		4		4		
ジカウイルス感染症	3		1						2		4		
重症熱性血小板減少症候群	101		78		110		118		134		122	1	
腎臓病性出血熱													
西部ウマ脳炎													
ダニ媒介脳炎												2	
炭疽													
チクングニア熱	49	1	3				5		7		10		
つつが虫病	404	1	538		544		492	1	445	2	353	1	
デング熱	461	4	45		8		98		175	2	231	1	
東部ウマ脳炎													
鳥インフルエンザ(H5N1を除く)													
ニバウイルス感染症													
日本紅斑熱	318	1	422	3	490	1	457	2	500	3	523	1	
日本脳炎	9		5		3		5		6		9		
ハンタウイルス肺症候群													
Bウイルス病	2												
鼻疽													
ブルセラ症	2		2		1		1		2		5		
ベネズエラウマ脳炎													
ヘンドラウイルス感染症													
発しんチフス													
ボツリヌス症	3		4		5		1				7		
マラリア	57	1	21		30		31		36		45		
野兎病													
ライム病	17		27	1	23		14		28		25		
リッサウイルス感染症													
リフトバレー熱													
類鼻疽	2		1				2				2		
レジオネラ症	2,316	21	2,059	26	2,133	19	2,143	28	2,291	25	2,428	25	
レプトスピラ症	32	1	17		34		38		49		53	1	
ロッキー山紅斑熱													
アメーバ赤痢	853	11	611	6	537	7	533	14	489	5	523	6	
ウイルス性肝炎	257	2	186		148		136		152	2	151	4	
B型	31		25		12		20		26		14		
C型													
D型													
その他	43	1	35		42	1	54		66	2	60	1	
不明					1		1				3		
(再掲：合計)	331	3	246		203	1	211		244	4	228	5	
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2,333	35	1,956	35	2,066	29	2,015	21	2,113	33	2,293	39	
急性弛緩性麻痺	78		34		25	2	41		55		48	2	
急性脳炎	959	11	491	2	338	1	399	1	661	4	633	2	
クリプトスポリジウム症	19		6		5		7		16		27		
クロイツフェルト・ヤコブ病	193	4	157	3	179		172	7	170		172	2	
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	894	10	718	9	622	6	708	16	939	11	1,893	19	
後天性免疫不全症候群	1,231	7	1,094	1	1,053	5	893	8	948	5	1,010	7	
ジアルジア症	53	2	28		32		32		39		42		
侵袭性インフルエンザ菌感染症	543	4	253	5	194	1	211	3	566	10	651	15	
侵袭性髄膜炎菌感染症	48	1	14		1		8		21		66		
侵袭性肺炎球菌感染症	3,344	23	1,655	17	1,405	18	1,347	20	1,987	35	2,555	28	
水痘(入院例)	492	9	362	8	301	5	327	7	405	9	486	8	
先天性風しん症候群	4		1		1								
梅毒	6,642	71	5,867	41	7,978	55	13,221	75	15,055	93	14,816	82	
播種性クリプトコックス症	156	3	152	3	163	1	159	1	173	1	191	2	
破傷風	126	2	104	2	93	1	96	2	109	1	86	4	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	80	4	136	9	124	3	133	9	115	1	124	12	
百日咳	16,845	37	2,819	7	707	1	491		1,000	15	4,093	18	
風しん	2,298	15	101	1	12		15		12		9		
麻疹	744	9	10		6	1	6		28		45	2	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	24		10		6		13		15		6		
髄膜炎菌性髄膜炎													

ゼロ値は表示していない

結核

(別添1)

図1 過去からの週別届出数の推移

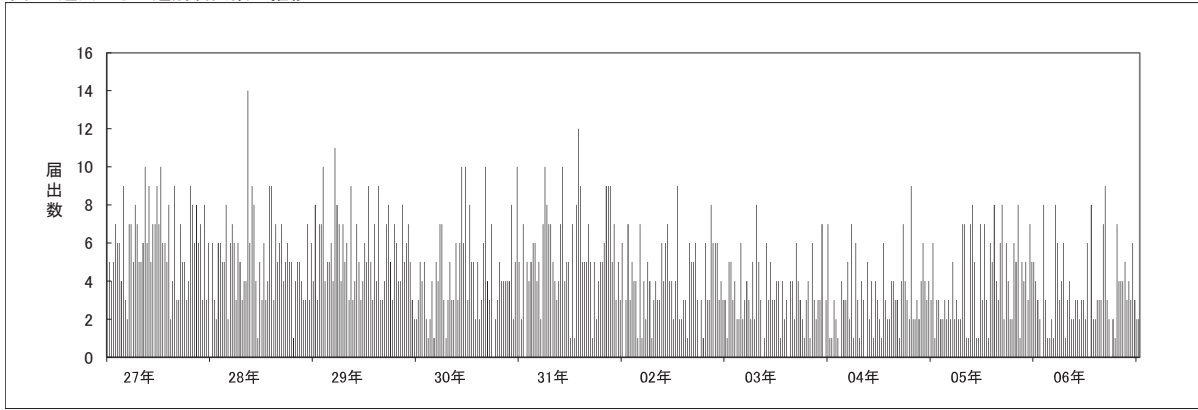


図2 過去からの届出数の推移

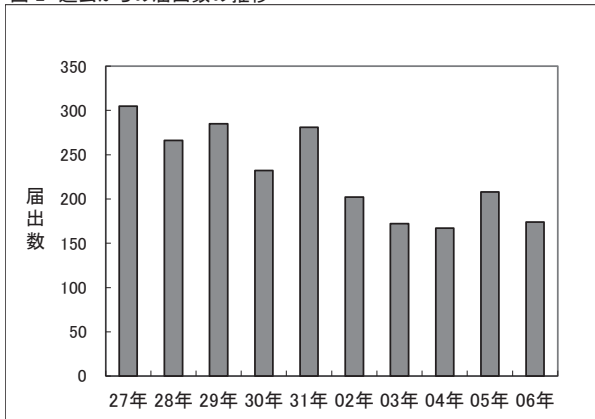


図5 週別届出数

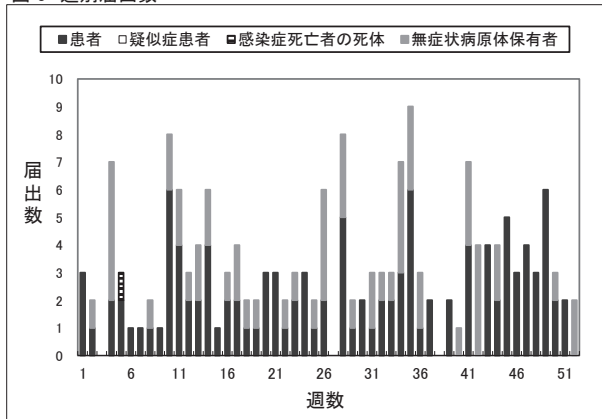


図3 年齢別届出数

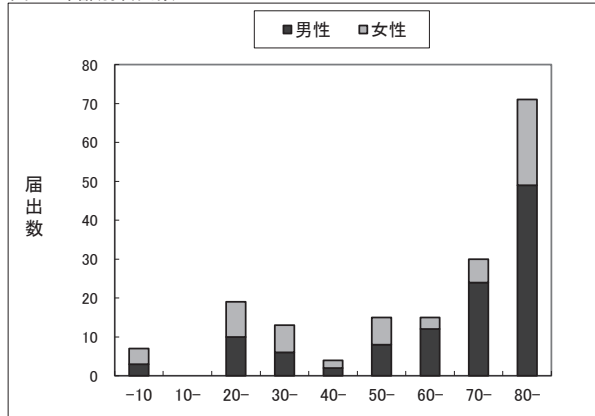


図6 病型別

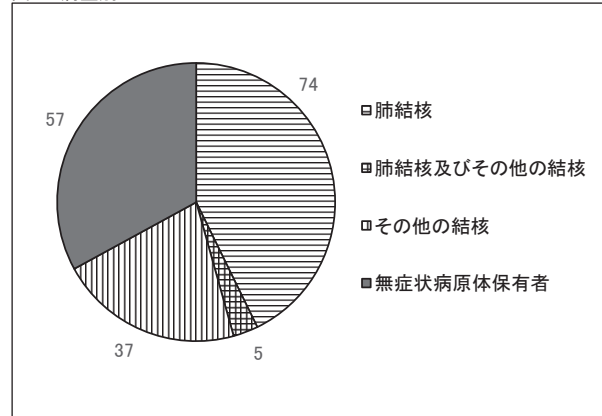
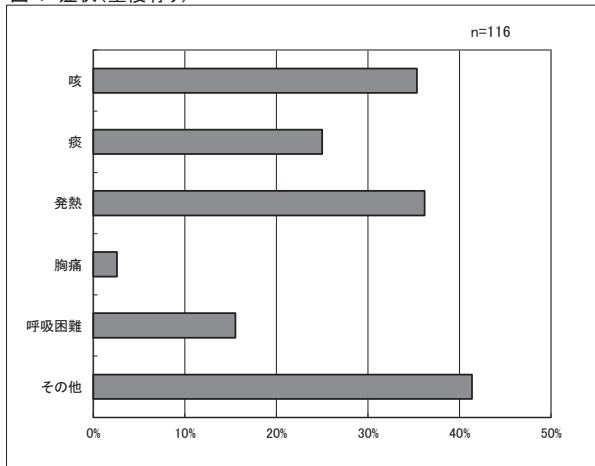


図4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内: 71例
 県外: 24例(都道府県不明を含む)
 海外: 11例

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

(別添2)

図1 過去からの週別届出数の推移

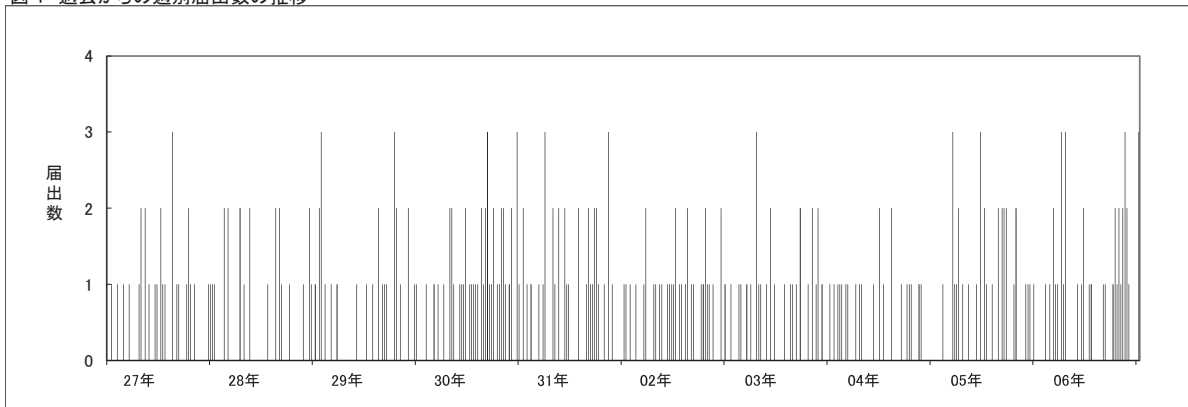


図2 過去からの届出数の推移

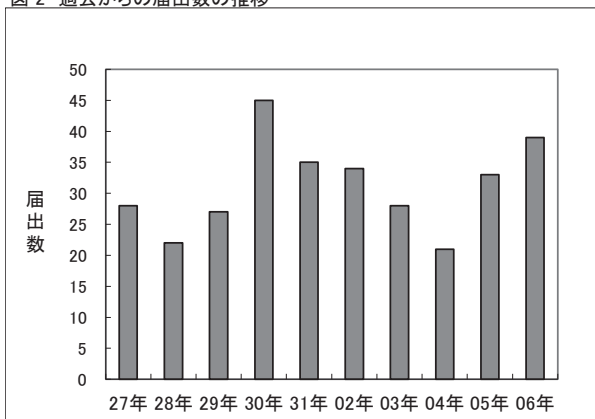


図5 週別届出数

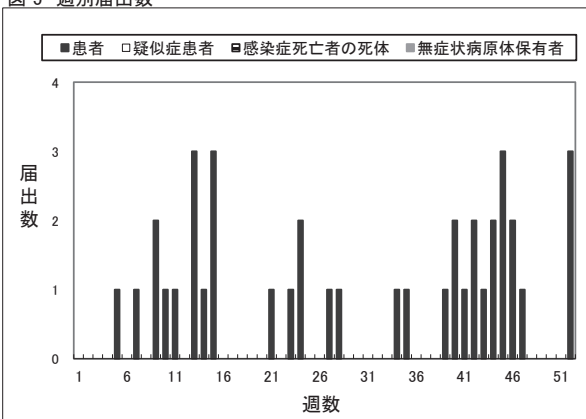


図3 年齢別届出数

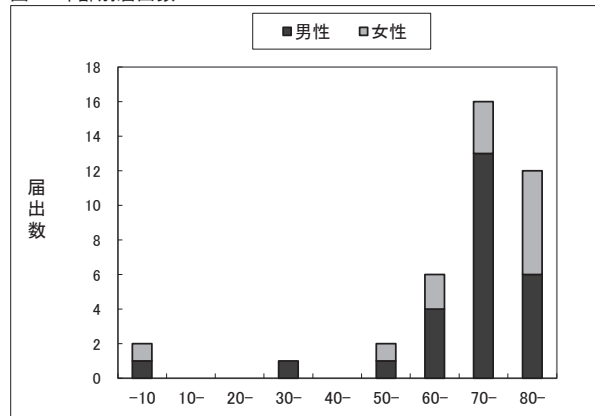


図6 菌種別

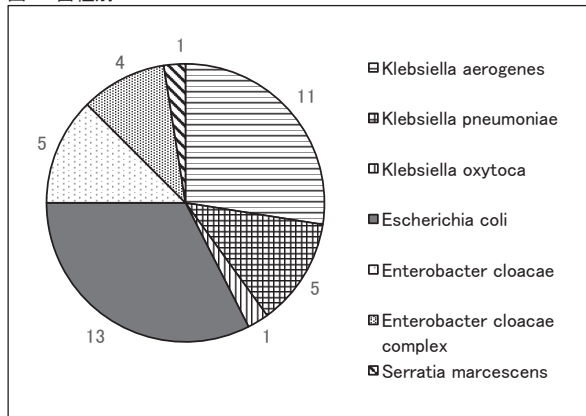
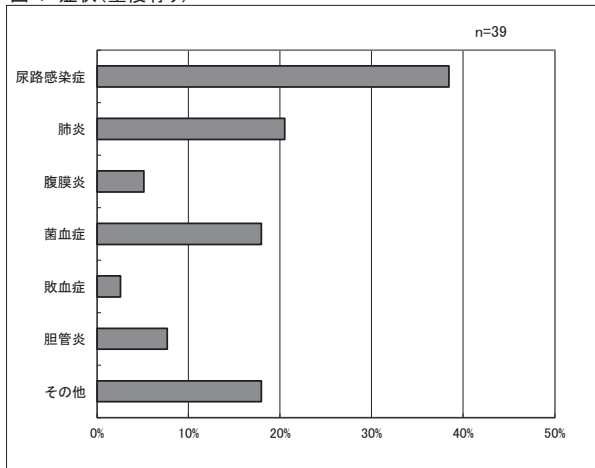


図4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内: 30例
 県外: 4例(都道府県不明を含む)
 海外: 1例

図1 過去からの週別届出数の推移

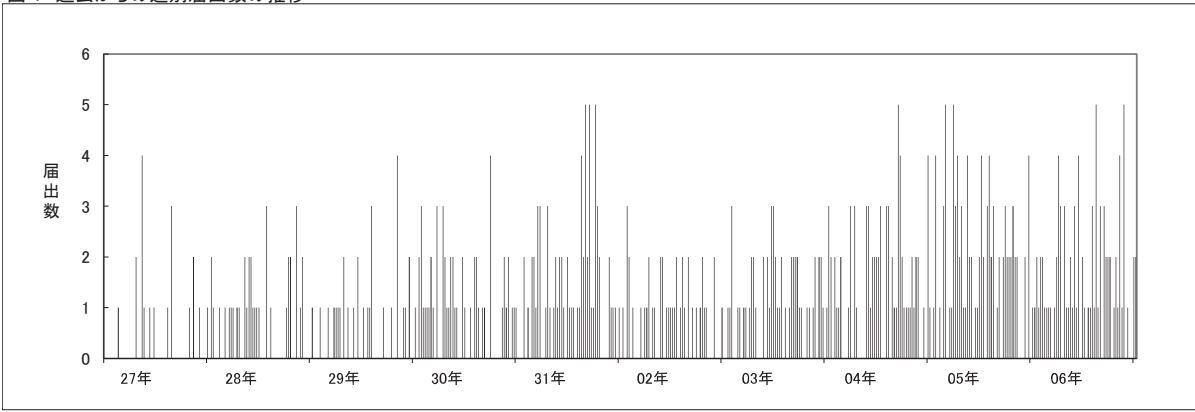


図2 過去からの届出数の推移

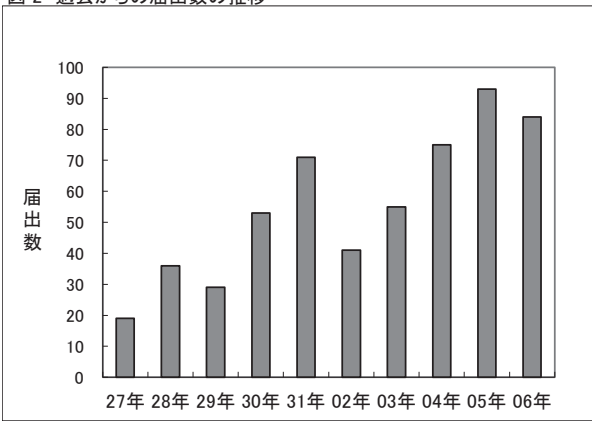


図5 週別届出数

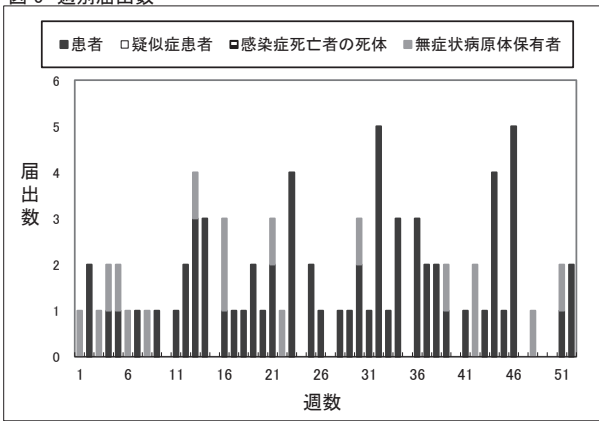


図3 年齢別届出数

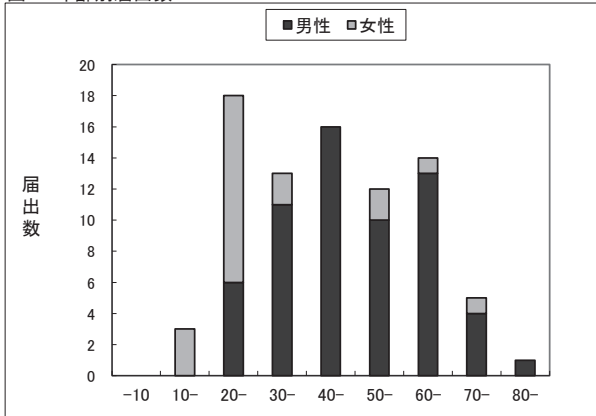


図6 年齢群別の届出数の推移

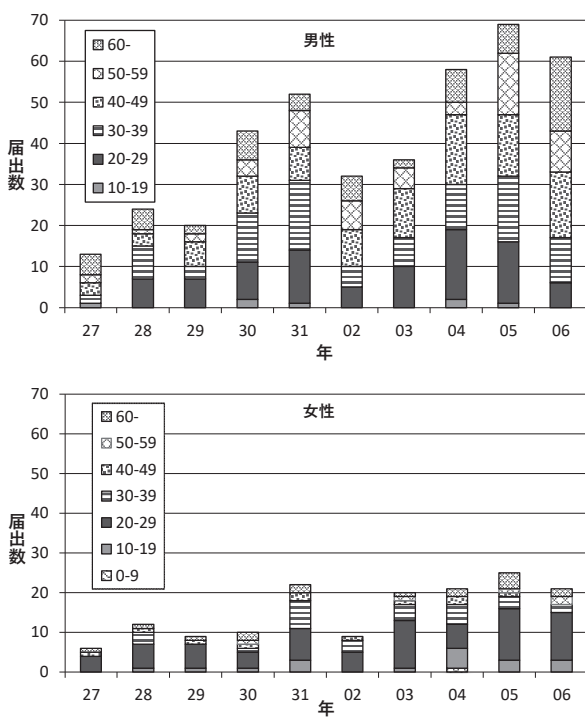
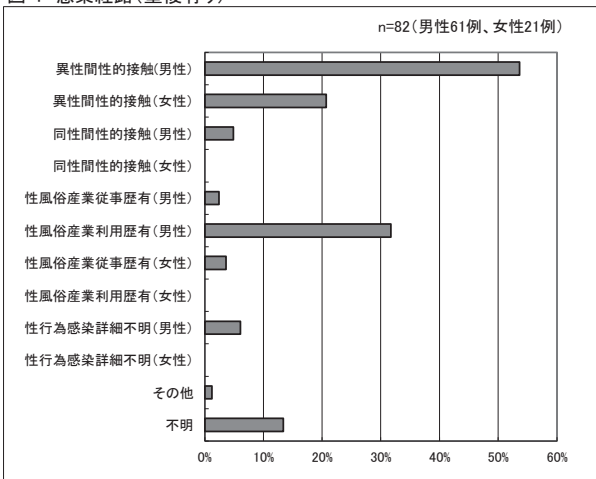


図4 感染経路(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内:22例
 県外:33例(都道府県不明を含む)
 海外:0例